

愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2025年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	専門演習Ⅰ		
担当者(Instructors)	松尾 香弥子	配当年次(Dividend year)	3
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	必修

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)
専門演習Ⅰ・Ⅱを通じて、各学生が興味を持って研究できるテーマを見出し、4年生での卒業論文・ゼミ論文の作成を念頭に、基礎的な研究技術を学ぶことを目的とする。研究テーマの内容は、人間のこころや行動について考える。例えば、教育現場の問題（いじめ、不登校、非行、暴力、発達障害等）、心の病の問題（うつ、自殺等）、社会の問題（ジェンダー、DV等）、自己の問題（自信のなさ、自己尊重感、自己概念等）、などの領域を中心とする。研究テーマを探す方法としては図書館での本や論文の検索、インターネットでの検索等を行い、資料の取り寄せが行えるようになる。なお、心理コースの全体講義および各担当教員による個別演習ともに、対面での指導とリモート授業（リアルタイム、オンデマンド）を使い分けて実施する。

■授業形態・授業の方法(Class form)	
授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	講義と演習形式で授業を行う。専門演習Iでは文献研究を主体とした学修を行う。心理担当教員による全体演習をはさんで、研究テーマの決定および関連論文講読を行い、研究成果を発表するためのパワーポイントの作成へと進む。最後に心理担当教員すべての演習による合同発表会において、プレゼンテーションを行う。なお、シラバス内容やその実施回は、進捗状況等に応じて柔軟に調整・変更するので注意すること。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)			
回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	ガイダンス 専門演習Ⅰの進め方	専門演習Ⅰの授業の概要、事前事後学習、受講の注意	☐
第2回	全体講義Ⅰ テーマの決定、構想を考える、先行研究を探す	1. 論文とは 2. 文献研究の論文の書き方	☐
第3回	個別演習Ⅰ（1）テーマを決定し構想を考える	「何が問題なのか」「なぜ問題なのか」を考える	☐
第4回	個別演習Ⅰ（2）背景説明	1. 事物の説明、2. 先行研究の紹介	☐
第5回	個別演習Ⅰ（3）問題提示	1. 問題点を指摘する 2. 疑問を示す先行研究を明らかににする	☐
第6回	個別演習Ⅰ（4）方向づけ	1. 論文の目的を示す 2. 問題提起で示された問題の解決方法が分かるようにする	☐
第7回	全体講義Ⅱ 本論の概略	本論の流れについて議論する	☐
第8回	学部合同ゼミ（予定）	人間健康学部主催の合同ゼミに参加する	☐
第9回	個別演習Ⅱ（1）論拠の提示	図書館やインターネットを使って論拠を示す資料を探す。資料とデータを書き分ける。	☐
第10回	個別演習Ⅱ（2）意見の作成	先行研究と意見を使って、論拠を示す	☐
第11回	個別演習Ⅱ（3）結果の証明	論拠と意見を使ってなぜそのような結論になるのかを証明する	☐
第12回	全体講義Ⅲ 発表の仕方	全体のまとめ方と分かりやすいプレゼンテーション	☐
第13回	個別演習Ⅲ（1）発表をまとめる	発表資料の作成	☐
第14回	個別演習Ⅲ（2）個別演習内での発表	各担当教員による個別演習内で発表する	☐
第15回	全体講義Ⅳ 心理担当教員の演習全体での発表会	1. 発表する 2. 全体で振り返りを行う	☐

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)
心理や生活、社会について関心のあるテーマを調べておく。次の授業に向けて必要な論文・資料の収集、読み込み、整理などをしていくこと。（2時間） 事後学習として、授業内で提示された内容や収集した論文・資料の振り返りと研究発表資料の作成に向けた準備をすること。（2時間）

--

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)				
毎回、講義後に進捗状況の報告が課され、次回の授業の冒頭で講評する。研究発表の資料作成について適宜指導・助言を行う。				
■授業の到達目標と評価基準(Course goals)				
区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)		
思考力・判断力・表現力	◆ 2019人間健康DP2	心理学研究を基盤として、問題意識を持ったテーマの設定、資料収集、発表資料の作成、研究発表ができる。		
■成績評価(Evaluation method)				
筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
			50%	50%
授業内試験等(具体的内容)(Specific contents) 演習科目であるので、作業・ワークなどに取り組む姿勢を「その他」として評価とする。また、その時々発表資料や小レポートなどにより、理解力や達成度を「授業内試験」として評価する。				
■テキスト(Textbooks)				
No. (No.)	テキスト名など(Text name)		ISBN(ISBN)	
1	なし			
2				
3				
4				
5				
■参考図書(references books)				
No. (No.)	テキスト名など(Text name)		ISBN(ISBN)	
1	授業内で適宜紹介する。			
2				
3				
4				
5				